

SSKW

海から海へ

No. 35 2013. 9. 29 【編集人】

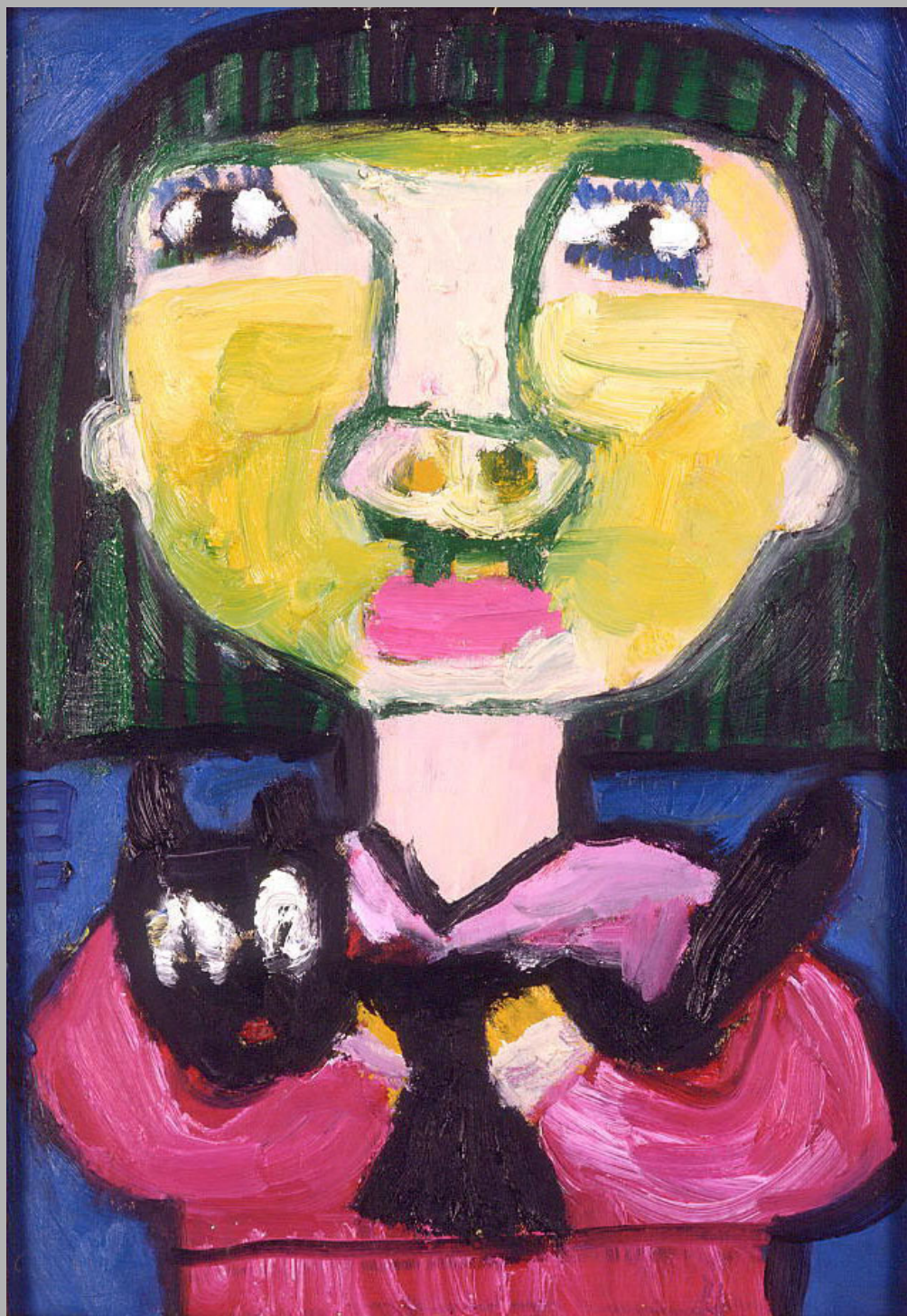
特定非営利活動法人 海から海へ

〒182-0024 東京都調布市布田 1-32-5

マートルコート調布 407

Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878

<http://umi.or.jp> office@umi.or.jp



黒猫を抱いたわたし Me Holding a Black Cat 333x242 1988 © Mizuki Tanaka

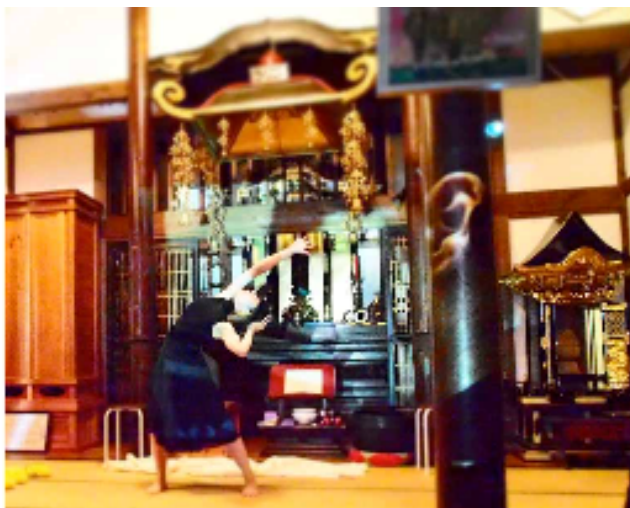
海から海へは、障がいをもつ人から渡される豊富なものの存在に気づき、人々と共有するため、障がいをもつ人を中心とした、文化芸術活動、研究活動、社会教育活動、心理カウンセリングなどの支援活動を行うこと、および、それらの活動を通し、障がいの有無にかかわらず、地域・国内・国外を問わず広く交流を深め、人々がより良く生きること貢献することを目的として活動しています。

工房とんとんオープン記念展覧会
2013 年 6 月 15 日(土)～7 月 28 日(日)
ダンスパフォーマンス「田中瑞木の世界」
2013 年 7 月 28 日(日)

ダンスパフォーマンス「田中瑞木の世界」の感動
村上恵子 (新潟県十日町市在住)

心に響く素晴らしい時間でした。

私たちは「田中瑞木展」で素敵な絵とご家族・応援団にお会いして、今回のイベントをとっても楽しみにしていました。また夢想堂でのご公演のシチュエーションはとてもユニークで映像が写し出された時、過去現在未来も創作もごちゃまぜでググッと引き込まれていきました。ダンスはみずきさんやお母さんの心模様を表現したものでしたので、あの縦横斜めの激しい動きや人間的なしなやかな動きは生きもののような柔らかで、かたくいろんなものを含んだエネルギーや豊かさを感じました。



ダンスによるみずきさんの世界とご家族のご様子はわたしの心の中にも皆のころの中にもある純粋な何か愛のようなものを呼び起こしてくれました。

ストーリーの中で作業所の S さんがみずきさんと約束をしたのになかなか来なくて 2 時間も待ち続ける姿やお母さんの子を想う情愛がダンスと朗読で読まれた時、私の実家・沖縄にいる脳に障害がある弟と母の姿が重なって思いだしては涙していました。ですから特別なかもしれませんが、S さんが少しずつ変わっていったように思うのです・・・という朗読もあって、人が変わる時、頭で理解して変わるものでなく、こんな真心のやりとりで人のころは動くということを伝えたかったのではないかなと感じました。



帰ってからあの俊敏な動きを模倣して意思のやりとりを夫と二人でして楽しみました。重ねてお礼申し上げます。

東京からお越しになったみずきさんの両親・阿部ご夫妻と大所帯のメモリの童話集(前納依里子さんが結成したグループの名前)のアーティストの皆さま、開催くださった黒岩さまに出逢いやつなかりをいただいて深く感謝しますとともに皆さまのこれからのご健康とお幸せをお祈りしてペンをおきます。感謝をこめて。

「桐鈴凛々」91 号(社会福祉法人桐鈴会発行)から転載。
村上恵子さんは、福祉関係の仕事をしています。夫の茂樹さんは、十日町の森林総合研究所所長で農学博士。池谷・村上慧星の発見者として知られるアマチュア天文家です。

森忠俊・明子 (千葉県四街道市在住)

「夢草堂」という空間の中で、エネルギッシュなダンスパフォーマンスと相まって麒麟の絵やブランコの絵、今まで何回も見せていただいていた絵が、いつもと違って見えました…。生きているような、なんだか声が聞こえてくるような…。



瑞木ちゃんの心の中をちょっと覗いてみたいと思うことがあります、少し覗けたのかな？

お母さんである愛子さんの深い愛情にも改めて敬意です。

そして、前納さんを初めとする芸術家集団のみなさんに拍手です。

真摯さと熱い思いが伝わってきました。



香蓮 (シンガーソングライター)

初めての新潟は初めて尽くしの旅でした。初めての再公演で地方公演、九人横一列でのお泊まり、トマトとキュウリというトトロに出てくるような新鮮な野菜の差し入れ、そして普通では考えられないお堂という舞台。

本番が始まる前に突然のどしゃ降り、終わる頃には信じられないほどに晴れ上がった空。何か感ぜずにはいられないほどの天気、まるで公演そのものを見ているようでした。

私が今回の公演に出させて頂く事になったのは、出演・構成をされた前納さんからの声がけでした。ダンサーとしても人としても尊敬してる方だったので、二つ返事で引き受けさせていただきました。さらには実力派揃いの共演者のみなさん、何より公演の中身自体に興味をもちました。

昨年カフェで公演についての打ち合わせをして、初めて見せてもらった瑞木さんのポストカードと絵本。猫好きな私は、瑞木さんの初めて書いた猫の絵に釘付けになり、絶対仲良しになれると勝手に思いました。

しかし、この絵本や瑞木さんの絵がどういう形で、ダンスになり、音楽になり、朗読になるのかは、到底想像もつきませんでした。



脚本が出来上がりそれを読んだときよりも、初めてのリハーサルで朗読、音楽を聞き、ダンスを見た時には言葉にできない何かを感じました。人間のパワーを感じました。

初めはそれが何なのか分かりませんでしたが、瑞木さんの絵本を何度も何度も読んでいくうちに、それは、瑞木さんのお母様の愛であり、瑞木さんへの尊敬や相手を大事にし尊重するという想い、そして瑞木さんの人柄そのもののパワーなんだなと思いました。だからこそ、それを表現する我々自身が自分達で演じていても感動したりするんだなと。私たちはその感動を、見ている方に色んな色(ダンスや朗読、音楽という)で渡していく役目なのかなと…

初めての場所で、初めてのお客様の前で、どういう風になるか心配だった部分もありますが、一人一人がそれぞれの想いを、今できる全てを出せた新潟公演になったのではないかなと思います。

もちろん公演の全てが終わり、舞台での挨拶を終えた直後は反応が分からなかったのもものすごく不安でした。しかし、終わった後のみなさんの反応や、感想文、そして主催者の黒岩さんの反応を見て、伝わったものがあつたんだなとすつつごく感動しました。

瑞木さんとお母様の愛がどしゃぶりの雨の様に私たちの体を通し溢れだし、見に来てくださった方々に伝わり、空まで届いたような…。そんな気がして、晴れ上がった空と少しジトツとした空気の中みんなで食べたご褒美のアイスが達成感とまじり、やけに美味しかった気がしました。

そんな新潟公演の一員として参加できたことを心から嬉しく思います。

田中瑞木さん、愛子さん、いつも三人仲良しで、二人を見守る阿部公輝さん(お父様)、主催の黒岩さん、共演者のみなさんそして、会場までお越しくくださったすべての方に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

また新潟公演がしたいなと、密かに夢見ています。



香蓮さんのHPは、<http://www.karensong.jp>です。画家も車中で香蓮さんのCDを聴いています。「ボクは大きな木になりたい。君を守りたい…」。何度聴いても心にしみてきます。

行ってきました！

「み〜ちゃんの世界」ダンスパフォーマンスの第二弾！

山口ひろみ(東京都調布市在住 海から海へ理事)

連日連夜猛暑だった東京を抜け出し7月28日南魚沼に2回目となるみ〜ちゃんの世界「前納依里子さんとその仲間たちによるダンスパフォーマンス」に行ってきました。

わざわざ行ったのではありませんよ！昨年12月に下北沢の庄野真代さんのお店(Com.Cafe音倉)で行われた公演の時に、是非もう一度見てみたいとずーっと思っていたからです。

2回目の今回は真夏！！南魚沼の夢草堂という工房とんとの裏手にあるお堂で行われました。えっ！！ここで踊るの？と、かなりビックリしましたが、お堂の中のそれはそれは太い柱、大きな仏像、そして背の高いロウソク。今までのどこのステージやセットよりリアルに美しい空間でした。その空間に展示された、みーちゃんの絵がまたよく溶け込んでいて、まるでずっと昔からそこに置かれていたようでした。みーちゃんの絵はどんな場所でも、誰にでも元気をくれる力がある事がよくわかりました。

舞台が始まろうとした時、突然どしゃ降りの雨が降り出しました。真っ暗なお堂の中は屋根に落ちる大きな雨音でいっぱいになりました。「こわい…」と言う小さな子供の声がお堂に響いた時、仏像の目がキラリと光りました。燭台を照らしたライトの光が反射したのです。足音もたてずに出てくるはずのダンサーの「ギーッギーッ」という床板の音。この場所に、ここに来たからこそ味わえた演出効果満点の舞台でした。



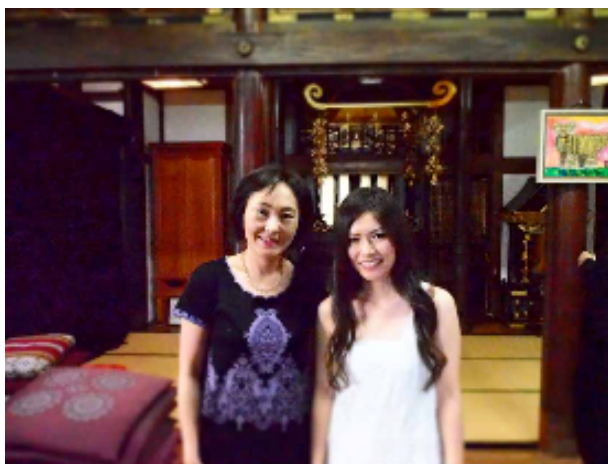
お堂の中のダンサーは座敷童子のように飛び回り、足の指先から頭のとっぺんまで力を込めて表現してくれました。



ハーモニカの今泉さんのなんとも言えない哀愁のある音色。香蓮さんの心に届く歌声。そして、みーちゃんの絵。お堂の中は、みーちゃんの絵本の中に入り込んでいました。

終演の頃にはすっかり雨も止み、南魚沼の田んぼに天使のはしごがピカピカ光っておりていました。お空の神様も良かったねと、褒めてくれたんだと思いました。

第三弾は是非、調布で…と、願います。



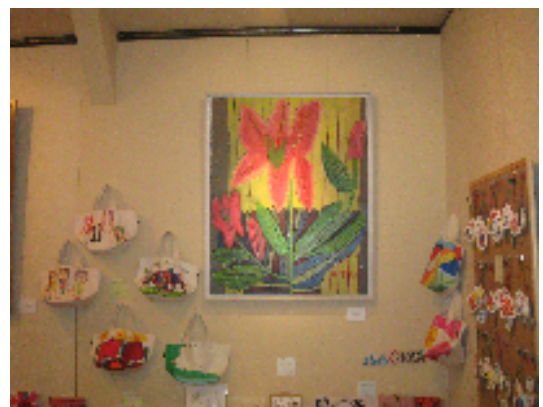
山口さん(左)と香蓮さん

(掲載のダンスパフォーマンスの写真は山口さんが撮影したものです)

「こんなに素敵な芸術家たち」白い画廊ポラン 2013年6月7日(金)～6月11日(火)

会員井上美穂子さんよりご紹介いただき、上記の展覧会へ出品いたしました。多摩地区の福祉作業所から織物、焼き物、トンボ玉、ぬいぐるみ、布製品がたくさん会場に展示される中、壁面には、田中瑞木の油絵6点がひとときわ目を引いていました。

会場の白い画廊ポランは中央道高尾インターから10分くらい、緑濃い綾南公園の並木道そばの白壁の画廊。今回一緒に出品された皆様方には大変お世話になりました。「忘れまい!福島チャリティ展」の趣旨に合わせ、ポストカード、ファイル、本などの売り上げの一部を、寄付いたしました。



平成 24 年度会計報告 (単位: 円)

I 経常収入の部	
1. 会費収入	147,000
2. 寄付金収入	320,000
3. 受取利息	139
経常収入合計	467,139
II 経常支出の部	
1. 事業費	
(1) 障がいをもつ人を中心とした芸術活動の 支援と作品の公開展示	58,864
(2) 障がいをもつ人を中心とした心理教育社 会福祉研究と実践	0
(3) 障がいをもつ人を中心とした交流の促進	238,506
(4) 芸術、教育、心理、福祉などに関する社 会教育	0
(5) 障がいをもつ人とその関係者のための個 別相談、教育支援、生活支援	0
(6) 活動に関する広報および成果の公表	204,854
(7) (1)～(6)の事業活動のための募金	0
2. 管理費	27,581
経常支出合計	529,805
経常収支	△ 62,666
前期繰越	960,453
次期繰越	897,787

画家の近況

皆様、お元気でしょうか。今夏は30年ぶりの異常気象だったとか、本当に暑かったですね。昨夏、熱中症で倒れた記憶もまだ新しいですが、画家は、元気に夏を過ごしました。

夏休みは岐阜県下呂温泉と新潟県長岡に2泊3日、走行1000kmの旅をしてきました。中央道ではバケツをひっくり返したような雨に母親は運転が怖くなりましたが、無事到着。去年と同じ宿は感慨が少なかったかもしれませんが、温泉と飛騨牛会席料理に満足の様子でした。

このところ、通う仕事に励む毎日です。画家がアトリエで絵筆を取る時間が減ってきています。いろいろな影響はあると思いますが、一つはアトリエが今使えない状況があります。年内は難しいでしょう。年が明けたら、30号の新しいキャンバスに向かう姿がきっと見られると思います。新作はそれまで、お預けです。



ドライブ 910x1167 1994© Mizuki Tanaka

編集後記

田中瑞木の絵とダンスパフォーマンス「田中瑞木の世界」についての皆さんの感想は、画家との生活の中で感じられることにつながっています。

それはつぎのようなメッセージです。

私のそばにはあなたがいる、私がどんなときもあなたがいる。いつでも、どんな辛い時も。周りの人がみんな私のことをダメだといっても、あなたは私のそばにいて、だいじょうぶだよと言ってくれる。自分のことをダメだと思って、もう生きていけない、消えてしまいたいと思っても、あなたはちゃんと私のそばにいて、そんな私を見て涙を流してくれる。

「私」は画家、「あなた」は画家の母親ですが、誰にとっても、たとえ気づいていなくても、「あなた」はいるということではないかと思います。(輝)

特定非営利活動法人 海から海へ

<http://umi.or.jp> office@umi.or.jp

振込口座 ゆうちょ振替: 00110-0-684539

みずほ銀行 調布支店 普通預金 8082621

2013 年 9 月 29 日 海から海へ No. 35

編集責任者 阿部公輝

〒182-0024 東京都調布市布田 1-32-5

マートルコート調布 407

Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878

発行所 〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21

特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価 200 円